

米国の利上げ、今後はどうなる？

FOMCに市場が注目する理由

2017年9月19、20日の両日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明を受け、米ドル高(円安)が進み、米国債の利回りが上昇、価格が下落するなど、マーケットは短期的に動きました。

年間8回開催されるFOMC開催前後に市場関係者は、その動向を注視する傾向にあります。それには理由があります。米国の大切な金融政策が決定、発表されるからです。特に注目されるのは、政策金利であるFF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標、背景となる景況判断等です。

9月FOMC、「利上げ維持」

9月のFOMCでは、主に以下の3つが注目されました。

- ①政策金利は、現在の1～1.25%で据え置きを決定
- ②FRBの資産規模(バランスシート)の段階的な縮小を決定
- ③利上げは、年内にあと1回、来年に3回を予想(6月時点の想定を維持)

特に注目したいのは、今回、インフレ率が今年、来年とも下方修正されたうえ、イエレンFRB議長もインフレ率の回復に確信が持てない様子を示唆しているにもかかわらず、利上げ回数について前回6月時点の想定を維持したことです。そのため、9月のFOMCの決定内容は**短期的には、ややタカ派(金融引き締めに積極的)寄り**とみられます。

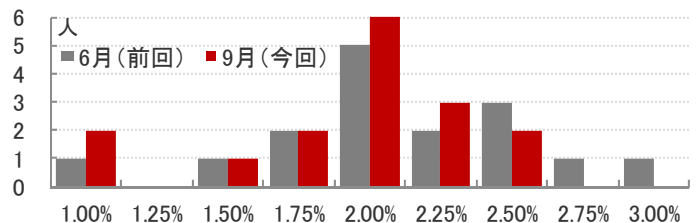
利上げ予想には、注視が必要かも

ただし以下3つの点で単にタカ派とみるには、注意も必要です。

- ①FOMC参加者による2018年の政策金利の予想(右グラフ)をみると、確かに中央値は3回ですが、右側の高い水準を予想した人がやや減った点。
- ②長期的な政策金利水準の予測の中央値が前回の3.0%から2.8%に低下した点。
- ③FOMC後、イエレンFRB議長が「インフレ率の低さについては、原因が謎である」と述べ、インフレ率の回復への確信が持てない様子だった点。

上記3点のような**ハト派寄りの姿勢も、ある程度維持されている格好であり、今後の行方には、注視が必要です。**

■FOMC参加者による2018年政策金利の予想
(時点:2017年6月(左)、2017年9月(右))



※ドットチャートで使用される1.00～1.25%という範囲を下限で表示
※6月の2.75%、9月の2.5%は政策金利予想範囲を下限値としている1名を含む

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。